

活躍の場広がるシルバーセンター



シルバー人材センターから派遣されてシマダで働く横井巳俊さん  
鹿児島市

「銀の卵」確保に力

高齢者が知識や技能を生かして働くシルバー人材センターの存在感が増している。小売業など人手不足に悩む企業の活用が広がり、派遣業務は右肩上がり。鹿児島市を中心に会員数も増加している。会員たちは「金の卵」と呼ばれて日本の高度成長を担った世代。半世紀たつてシルバー世代となった「銀の卵」たちは、少子高齢化の社会を再び支えている。

鹿県内

7月下旬の夕方、鹿児島市のニシムタスカイマーケット鴨池店。鹿児島市シルバー人材センターから派遣された横井巳俊さん(74)は、調理器具の汚れを丁寧に磨き落としていた。71歳まで民間の信用調査会社で働き、定年後の時間を余らせていたという横井さんは、2年前にセンターに会員登録した。1日4時間、月に18日働き、休日にはゴルフなどの趣味に費やす。「働いてい

知識、技能 人手不足補う

るから遊びもできる。年金だけではお金が足りない」と横井さん。県内では、鹿児島市と鹿嶋市の2つのシルバー人材センターに連合会によると、県内では95人いる。もともと生きがいづくりが目的の同センターの労働時間は、民業を圧迫しないよう、週20時間に制限されていた。2016年の規制緩和を受け、県内では今年4月から、農業や食品製造、小売りなど7業種の7職種で就業可能な時間が週40時間に拡大し、活躍の余地は広がった。連合会の源田弘之常務理事(69)は「週20時間を超えて働く会員はまだ多くはないが、茶業など繁忙期に集中的に労働力が必要な業種にはメリットが大きいです」と話す。1人が働

保すべき人数が減るからだ。県内センターの人材派遣業務は特に需要が高まっている。派遣契約を金額ベースでみると、11年度の1億3700万円から、17年度は10億円を超え、九州一の規模を誇る。必要の増加に合わせ、連合会では会員の確保にも力を入れる。スムーズに就業できるように介護補助員や料理補助員、店舗スタッフなどの職種ごとに無料の講習会を開催し、会員の維持、拡大につなげている。県内の会員は1万1934人(2017年度)と14年度に比べ、1141人増えた。特に女性の伸びが大きい。鹿児島市の有料老人ホームで働く境和子さん(68)は「新しい経験、仲間ができて楽しい。働くようになって元気になったといわれる」と語る。子育て支援や介護、調理補助など、

女性の経験を生かしやすい職種の派遣先も増えているという。一方で、各地で人手確保が難しくなってきたのが、草払いや庭木のせん定などの従来多かった請負業務。高齢化が進む地方ほど、やる人が増え、新たに会員になる60代が少なくなっている。連合会の藤山幸一会長(63)は「人生100年ともいわれる時代になり、もはや60代はシルバーとは呼べないほど元気。現役世代を補完する役割から支える戦力になっている」と話す。(園田尚志)

2018(平成30)年

8月14日  
火曜日

旧暦7月4日  
仏滅

日	月	火	水	木	金	土
29	30	31	1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28	29	30	31	1

さよりの歴史  
1945(昭和20)年

ポツダム宣言受諾  
皇居内の防空壕(ごう)で御前会議が開かれ、昭和天皇の裁断で無条件降伏を勧告する連合国のポツダム宣言受諾を最終決定した。陸軍の一部が反対し終戦詔書を吹き込んだ録音盤奪取を試みたが失敗、「玉音放送」で国民に伝えられた。



南日本新聞  
新聞活用  
ビジネス講座

受講社募集中!

文章力、雑談力  
アップ

新聞の読み方のコツ、  
活用法を学べます

受講無料  
試読紙1週間お届け

読者センター 099(813)5004  
(平日9:30~17:30)  
※企業や自治体の職員が対象です

- 総合
- 2 沖縄知事選 来月30日投開票
  - 3 北朝鮮拘束邦人は39歳男性
- 経済
- 6 全国焼酎売上高上位50社発表
- 地域
- 14 重富海水浴場で干潟の運動会